

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	りつめいかんけいしょうちゅうがっこう・こうとうがっこう				②所在都道府県	北海道
27～31	①学校名	立命館慶祥中学校・高等学校				県	
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	中学校：562名 高等学校：866名	
普通科	304	259	74		637	高3は立命館コース（LA・IR・JB・SS）と難関大コースに分かれる。	
（中学校）	（190）	（185）	（187）		（562）	両コースでは303名。	
	高3は、立命館コースの文系3クラス（LA・IR・JBコース）の特設講座選択者の人数。						
⑥研究開発構想名	「共鳴」と「創造」マインドを育む ―世界に通用する18歳―						
⑦研究開発の概要	将来の多文化共生の社会において、他者に「共鳴」し、新たな社会をともに「創造」できる人材育成を目的とする。そのため、課題研究のテーマを「多文化共生を共に創る」とし、他者との学び・活動・研究を進める。そして、人材育成のための教育システムの構築と具体的研究手法の確立を目指す。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標 グローバリゼーションが進展し、多文化共生が求められる中で、他者との違いを理解し、認め合い、尊敬し合うことによって「共鳴」し、文化や言葉、生活習慣の異なる人たちとともに、新たなものを「創造」することができるグローバル・リーダーを育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 本校は、北海道の学校として特色ある教育を築き上げてきた。創立当初から世界を教材とする国際教育に力を入れ、「世界に通用する18歳」を育てることを重視して創立20年目を迎える。生徒の国際理解に係る関心は高く、外国語の運用能力も高いが、異文化にある他者を理解し、ともに考える機会を保障することが課題である。 一方、これまで海外との相互交流で実施してきた交流事業、3年次立命館コースで実施してきた課題研究は、一定の成果を上げている。これらについて、より組織的・計画的な指導体制の整備によって、さらなる人材育成の効果が期待される。 以上の課題を踏まえ、1～2年次において、<u>地域の課題を考える</u>ことから敷衍して<u>世界の課題について検討する</u>ことにより、相手の意見を丁寧に聴き、立場の違いを理解して対話し、他者とともに考える力を育てる。そして、3年次には<u>世界のより大きな課題へ迫る取組</u>を実施し、異文化にある他者と新たなものを創る取組を行う。中学同様、高校においても「地域から世界へ」という流れを重んじたい。 そこで、次の仮説を設定する。</p> <p>○仮説1 高校1年次に「地域研究」（1単位分）として地域の課題を考える学習を実施し、地域課題について考えることで、問題解決のための発想力をつけることができる。</p> <p>○仮説2 高校2年次に「海外文化研究」（1単位分）として世界の課題を考える学習を実施する。異文化にある他者と共感できる力をつけることができる。</p> <p>○仮説3 高校3年次に、立命館コースの文系生徒全員に対し、世界の課題の深掘にチャレンジするステージとする。ここでは、「観光開発」「国際社会」「アジア学」の特設講座（各3単位）において、異文化に生きる人々と共に学び、平和的解決へ向けて対話する力をつけることができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p>					

	<p>課題研究の論文をまとめた成果報告書を作成し、SGH 課題研究発表会を開催する。また、学校祭、小学生向け体験授業、中学生向け体験授業等で、学外の生徒・保護者に対し本校の研究成果の発表や研修報告を行うとともに、Web 上で成果を公表する。さらに、海外の大学・高校・国際機関との連携による取組をマスコミに積極的に広報することにより、成果の普及に努める。</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 テーマ：「多文化共生を共に創る」 高校 1 年では「地域研究」を、高校 2 年では「海外文化研究」を、そして高校 3 年の立命館コース文系 3 クラス (LA・IR・JB) の特設講座「観光開発」「国際社会」「アジア学」において課題研究を実施する。また、学校・学年全体へ向けた講演会や、学校内外への普及活動として SGH 課題研究発表会を開催する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域研究：地域の課題を考える学習を実施し、地域の課題について検討を行い、各教科学習において本校のグローバル・リーダーに求められる 6 つの力を養う学習を実施する。 ・海外文化研究：世界の課題を考える学習を実施する。ここでのフィールドは海外研修 (高 2 学年生徒を 7 つのコースに分け、それぞれの地域が抱える歴史的・文化的課題を考えるもの) である。統一設定したテーマに基づき、全コース共通のテーマを設定し、現地の高校生または大学生とのディスカッションや活動を企画し、実施する。この活動・経験を通し、生徒自身の自主性を育成し、現地の人々と協力して問題解決に取り組む態度を養う。 ・観光開発：北海道とサハリン (観光学を基礎に、両地域間の観光開発を行う) ・国際社会：アイヌ文化 (自然との共存を基礎とするアイヌ文化の理解) ・アジア学：多文化共生 (多様な民族が共生する東南アジアをモデルに多角的学習を行う) <p>※上記の高 3 特設講座は週 3 単位で行う。フィールドワークを国内及び海外 (サハリン、タイ) にて実施する。それに加えて、各講座は立命館アジア太平洋大学や JTB 北海道、Bangkok YMCA など外部の大学・機関・組織と連携し、学校内に限定されない学びを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会・SGH 課題研究発表会：講演会を秋に、発表会を冬に実施する。 <p>〈検証評価〉初年度の検証は、高 1・2 年にアンケートやポートフォリオにて評価をする。高校 3 年特設講座については年 3 回実施するペーパーテストにおいて、知識を問うだけではなく、問題解決のための発想力や具体的な企画力を試す問題を設定する。また、プレゼンの作成・発表は教員と授業参観する第三者によって、評価を行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 教育課程の特例を適用する内容はない。</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容・実施方法 中学生に対しても高校での活動を意識し、各学年で取組を行う。さらに英語能力の向上を目的に、TOEFL-ITP を受験し、ハイスコア (500 点) を獲得できるよう講習を行う。 〈検証評価〉アンケートの実施、特定スコアを超える人数など。 <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 教育課程の特例を適用する内容はない。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の実施方法 海外留学生 (短期・長期) の受け入れの促進と、生徒の短期・長期海外留学への支援を積極的に行う。また、平成 26 年度より始めたハーバード大学・MIT 研修を継続する。</p>
<p style="text-align: center;">⑨ その他 特記事項</p>	